

つくい かい
月ぬ美しゃ節
(二揚げ)

つくい かい とっかみいか みやらびかい とっうなな
1. 月ぬ美しゃ十日三日 女童美しゃ十七つ
ホーイチョーガ

あーるい うふつくい ゆ
2. 東からあーりおる大月ぬ夜
うきな やいま てい
沖縄も八重山も照らしょうり ホーイチョーガ

つくい ゆ あさ
3. あんだきな一ぬ月ぬ夜 ばがけーらん遊びょうら
ホーイチョーガ

ていら うふふだ いちゅばなくんがにばな さ
4. 寺ぬ大札ん(*)が 絹花 黄金花 咲かりょうり
ホーイチョーガ

や あ ばな さ
5. びらまぬ家ぬ東んたんが むりく花ぬ咲かりょうり
とう とう
うり取るいかり取るいなつくいばしい
や はな
びらまぬ家ぬ花ぶんな ホーイチョーガ

みやらびや ぞー はなずみていさーじ うとう
6. 女童家ぬ門んが花染手布ばきり落し

とう とう
うり取るいかり取るいなつくいばしい
みやらびや みま
女童家ゆ見舞いす ホーイチョーガ
ずまど

7. 釜土ぬふついぬあびゃまー のーどうのーどうんまさり
たばく しちゃば
煙草ぬ下葉どうんまさり
ちゃぬ
茶飲みばーやんがさぬ ホーイチョーガ
(6番7番の歌詞は参考掲載)

1. 月が美しいのは十三夜
乙女が美しいのは17歳

2. 東から昇る大きなお月様の夜
沖縄も八重山も照らしている

3. あれほどの月の夜
わたしたちも遊びましょう

4. 寺の大札に美しい黄金の花が咲いています

5. びらまの家の東にジャズミンが咲いています
それを摘むということにして
(びらまと一目会うために)
びらまの家の花を

6. 美しい娘の家の門に花染の手布を落とします
それを拾うということにして
(娘と一目会うために)
娘の家の中を見遣るのです

7. かまどの前にいるおばあさん 何がおいしいの
煙草の下葉がおいしいよ
お茶を飲んでもおいしいよ

< 解説 >

月が出てくることから「夜の子守唄」といわれています。この他にも様々な詞が唄い継がれていて一貫した物語としての性質はありません。

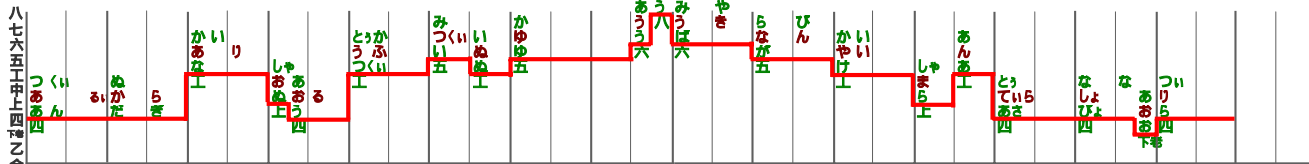
(*)歌詞中の「大札ん」は未詳ですが、寺院の中の重んずべきある場所を指していると考えられます。

< 八重山 >

四 四 工 四 工 五 工 五

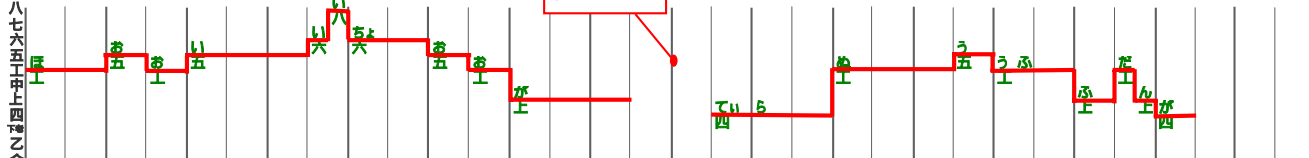
1・2・3番

四 四 工 四 工 五 工 五 六 五 工 上 四 下老上 四 合 五
 ついぬ かい しゃあ とっか み い か ああみ やら び かい しゃあ とっ 下老上 四 合 五
 あん だ き な ぬう つい い ぬ ゆ ううば ううき なん やい まん ていら しゃあ びよ あり
 あん だ き な ぬう つい い ぬ ゆ ううば ううき なん やい まん ていら しゃあ びよ あり

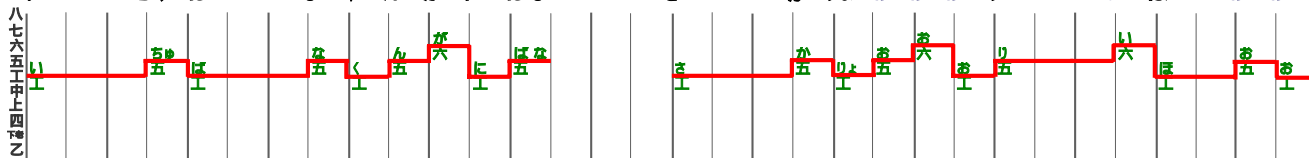


4番

工 五 工 五 六 五 工 上 上下老 四 四 工 四 五 工 上 四 合 五
 ほ おお い いちよ おお が ていら ぬ う うふ ふ だんが

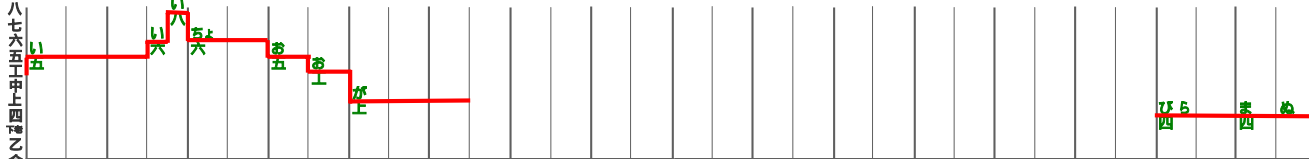


工 合 五 工 合 五 工 五 六 五 合 五 工 合 五 工 五 六 五 工 五 工
 い ちゅ ば な く ん が に ば な さ か りよ おお あり い ほ おお

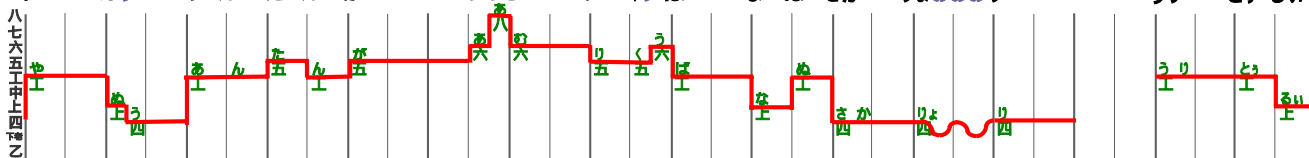


5番

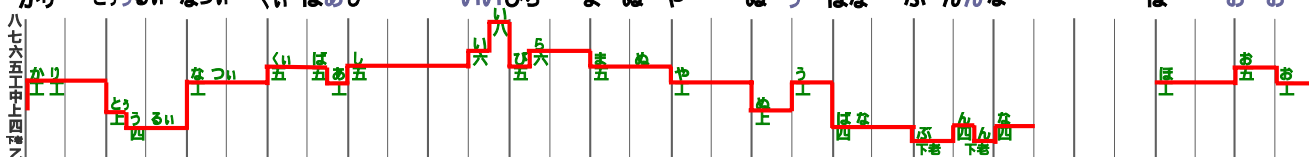
五 六 五 工 上 上下老 四 四 工 四 工 五 工 五 四 四
 い いちよ おお が びら まぬ



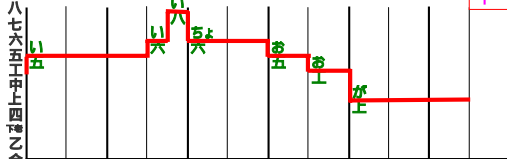
工 四 工 五 工 五 六 五 工 上 工 四 下老上 四 合 五 工 上
 や ぬう あん たん が ああむ り くう ば な ぬ さか りよ おお あり うり とる い



工 四 工 五 工 五 六 五 工 上 工 四 下老上 四 合 五 工 五 工
 かり とる い なつ い くい ば あし いい びら まぬ や ぬう ば な ぶ ん な ほ おお



五 六 五 工 上 上下老



1. 月ぬ美しや十日三日 女童美しや十七つい ホーイチョーガ
2. 東からありおる大月ぬ夜 沖鏡ん八重山照らしより ホーイチョーガ
3. あんだきなぬ月ぬ夜 ばがけーらん遊びょうら ホーイチョーガ
4. 寺ぬ大札んが 銅花 黄金花 咲かりょうり ホーイチョーガ
5. びらまぬ家ぬ東んたんが むりく花ぬ咲かりょうり うり取るいかり取るい なつ くい ば あし いい びら まぬ や